

(平成 27 年 12 月試験研究業務月報)

タスクチーム活動：飼料用米の新制度に対応するための栽培・利用方法の提案

情 報

## 飼料用米多収栽培に向け地域検討会を開催

畜産センターや中丹西・丹後農業改良普及センター、農林センターで構成する飼料用米に係るタスクチーム<sup>\*</sup>は、飼料用米の多収栽培を目指して、栽培農家や関係市町、団体職員など 89 名の参加を得て、南丹や中丹、丹後地域で検討会を開催しました。

検討会では、今年度 3 地域で取り組んだ実証試験の結果や収穫後の流通保管状況などを解説し、参加者からは「栽培に関するデータをさらに蓄積して地域特有の技術指導を望む」との意見が寄せられるなど、作付面積拡大と収量増加に向けた意欲の高まりが感じられました。

今後、年度内に品種や施肥に関する栽培農家全戸調査の結果を踏まえ、来年度は 20 か所で実証栽培し、低コスト・多収栽培技術の確立を目指します。

※タスクチーム：研究機関と普及組織等の総合力を発揮し、生産者を伴走支援することで現地課題を早期に解決する活動



南丹地域 (11 月 30 日)



中丹地域 (12 月 4 日)